

知事との県民対話集会（飯山市）概要

- ・開催日時 令和5年6月10日（土） 午前10時30分から正午まで
- ・会場 飯山市役所 4階第1委員会室～第4委員会室
- ・参加者 県民71名、江沢飯山市長、阿部知事、小池北信地域振興局長
- ・テーマ 自転車を活用した地域活性化と環境整備について

・主な発言（要旨）

【参加者】

・千曲川の堤防を全てサイクリングルートに整備することで、人を呼び込めると思う。また、治水と観光、地域振興など発展することができる。飯山から佐久まで直通で行けるよう整備し、ルートに温泉地の看板等を設置すれば地域も潤ってくる。

【知事】

・ジャパン・アルプス・サイクリングロードは、全県を一周するルートとして設定した。既に利用されている道路を活用した区間もあり、上流から下流まで一気通貫にサイクリングができる形にはなっていないが、おっしゃるようなことを目指した方がよいと思う。

・治水安全度を高めるだけでなく、河川をアクティビティに利用するなど楽しめるように意識しながら、いろいろな取組を進めていきたい。

【参加者】

・サイクルステーションが多く設置されてきたが、そこに関わる人の自転車の知識やおもてなしなどサイクルステーションの役割が課題。簡易な自転車メンテナンス講習会を開催することで、サイクルステーション利用者の安心向上につながると思う。

・ヘルメット着用が努力義務化されたが、購入者は女性が多い。男性に購入を促すアイデアはないか。

・自転車は便利で手軽な乗り物ではあるが、軽車両という意識が低い。自転車の危険性を理解するとともに、感動を体感する手段として、市街地でのロードレース大会の実施を提案する。

【知事】

・サイクルステーションは数を増やすことに重点を置いてきたが、ソフト面の対策も重要だと思う。いただいた意見を踏まえ考えたい。

・ヘルメット着用の男女差について、全県でどのような状況になっているか調べてみたい。

・観光の面でも素晴らしいルートをつくれれば、国内外から人は訪れる。この地域は豪雪地域のため、スノーリゾート観光と夏場のアウトドアツーリズムをセットで推進しないといけない。自転車は、長野県にとって重要な観光手段である。

・観光振興や生活スタイルに自転車を組み込むために、県警とも連携し、交通安全も並行して対応していかなければならないと思う。

・世界に注目されるためには、イベントも有効と考える。地域住民の方の理解と協力が必要。

・自転車の振興には自転車店の協力が不可欠であるので、ご協力いただきたい。

【参加者】

・飯山市は生活感のある観光地としてインバウンド客から評価を得ていると思う。

・ハード整備は順調に進められているが、知ってもらうためのプロモーションが必要。整備に集中しがちで、整備したものを活かしてきれていないと感じる。海外に対してどういったプロモーションが必要か、考えを伺いたい。

・インバウンドを進める上で、海外の観光地を知る機会がもっとあればよいと思う。

【知事】

・飯山は、観光地としてはあまり知られてないが、実はよい地域であるということをもっとアピールすることが重要。コロナ収束後に海外発信をやり直しているなので、積極的にPRしていく。

・インバウンドのターゲットを決めて、どのようにアプローチすべきか一緒に考えたい。

【参加者】

・サイクリストを受け入れる宿泊施設やコワーキングスペースを分かりやすく発信することで、同じ趣味を持つ人が集まりやすく、長野県のPRになると思う。

【知事】

・地域全体でサイクリストを迎える体制や発信が必要。サイクリスト同士がつながる環境が必要であると思う。

【参加者】

・スキー場に自転車で雪上を走る雪チャリのコースを設営している。新しい企画やアクティビティを考察しPRしていきたい。

【知事】

・県としてもスキー場をどの様に維持、発展させていくのか本格的に検討していきたい。通年で人をひきつけられるように踏み込んだ検討をしたいので、協力いただきたい。

【参加者】

・道路の路側帯付近を整備してほしい。自転車が走りやすい道路環境が整うと、多くの人を訪れ、SNS等での発信も増え、さらに人が集まる地域になっていくと思う。

【参加者】

・サイクルツーリズムを進める上で、常に自転車のことを気にかける環境と継続性のある取組が必要。ジャパン・アルプス・サイクリングロードの矢羽根や看板が整備されたことで、住民も気にかけるようになった。
・富山県では、春先の道路補修に合わせて矢羽根を直している。生活環境の一部という意識で、継続的な整備をお願いしたい。
・自転車の環境整備を継続することで、市民への啓発やスポーツ推進につながる。

【知事】

・県では、道路の維持補修に係る予算を増やした。まだ不十分なところもあると思うが、交通安全の観点からも重要であり、予算配分のあり方をどうするかについて考える必要があると思う。

【参加者】

・ジャパン・アルプス・サイクリングロードについて、県民自ら自転車で走り、語れるようになることがスタート地点であると思う。発信力のある知事と一緒に走る機会があるとありがたい。
・過疎化や少子化でJR飯山線の利用率が下がっている中で、サイクルトレインを実施できれば、サイクリストだけでなく一般の旅行者の鉄道利用も増え、飯山線の活性化にもつながる。

【知事】

・PRできるように考えたいと思う。
・サイクルトレインは県内各地で意見が出ている。地域公共交通の利用促進の一環としても念頭に置きながら考えていきたい。

【参加者】

・自転車で泊まれる宿と分かるようにPRすれば、もっと来訪者が増えるのではないかと。
・インバウンドは、アジアよりも欧米の方が来ている。長野県に5、6回程度来たりピーターを大使に任命するなど特典を与えると、SNS等での発信が期待できる。

【知事】

・サイクリストが歓迎されているという雰囲気をつくって発信していくことが大切なので、一緒に考えたいと思う。
・リピーターへの特典やリピーターとコラボした発信については、宿泊施設の皆様にも協力いただきたい。

【参加者】

・体力がなくトレッキングできない方もいる。E-BIKEは体力がなくても走れるため、トレッキングコースを走れるようになれば、多くの観光客が訪れると思う。
・インバウンドでは、自転車が重要なコンテンツになる。海外の国際的リゾートでも自転車で誘客を進めており、トレイルを活用して発信できるといい。バックアップをお願いしたい。

【知事】

・ユニバーサルツーリズムを県としても進めている。アクティビティは元気な若者の場というイメージになりかねないので、幅広い人たちが楽しめるということを発信していきたい。

【参加者】

- ・JR飯山線の「おいこっと」と自転車をコラボレーションさせた企画を検討してほしい。

【知事】

- ・自転車とどうコラボレーションできるか、鉄道事業者と考えたい。

【参加者】

- ・自転車の利用人口を増やす方法の1つとして、中学校の通学での自転車の距離制限を撤廃してはどうか。通学でも景色を楽しめたらいいと思う。

【知事】

- ・住んでいる人も一緒に楽しめる観光地域づくりが大切。飯山のように、生活と観光がつながっている場所が今後売りになると思う。
- ・中学校の距離制限については、地域の皆さんから学校に問題提起していただければありがたい。

【参加者】

- ・自転車の安全をどう担保するか。自動車の運転免許を持っている人と持っていない人では、安全への意識が違う。自転車の安全教育が必要であると思う。

【知事】

- ・自転車振興とともに安全対策も必要。運転免許の有無で自転車に乗る意識が違う。学校現場での教育が必要であると思う。

【参加者】

- ・PRで一番強いのは口コミ。地域の人が自分で体験しないとよさが分からない。自転車やヘルメット、アクティビティの参加費などは高額なので、補助金があると自分で体験して口コミの情報を発信できる。

【知事】

- ・例えば、集落のシェアサイクルなどへの補助金なら考えられなくもないが、補助金には様々な条件が付くので、補助金には頼らない方がよいと思う。
- ・自転車振興を進める上で、個人への補助金よりも、まずは道路整備やサイクリストを受け入れるためのPR、安全対策などを優先して進める方がよいと考えている。